

意見把握の結果概要

目次

1. 転入出アンケートからみえる特徴 1
2. 市民アンケートからみえる特徴 7
3. ワークショップ（市民、若手職員）意見の結果概要 8

転入出アンケートからみえる特徴

○転入・転出で共通する特徴

- 移動の主な要因になった方は、20歳代、30歳代が約半分を占める。
- 居住地を決める理由は、1位が通勤利便性、2位が日常の買い物利便性である。
- 住宅に関する理由で移動した人は、住宅購入のため移動する人が最も多く、特に転出でその傾向が見られる。
- 転入後、転出後の世帯構成は、夫婦のみ、ひとり、二世帯同居（親と子）がほぼ同割合（各約3割）となっている。

○転入の特徴

- 実家等（持家）から就職を機に、もしくは通勤利便性を考慮して、賃貸マンションやアパートへ、ひとり世帯、夫婦世帯、親子世帯が転入してきていると想定される。
- 中学生以下の子どもがいる世帯のうち、両親の一方のみが就業している世帯が多く転入している。

<良い点>

- ・東大阪市に居住経験がある人が戻ってきており、居住経験が長い人ほどその傾向が見られる。
- ・ひとり世帯からの居住評価、定住意向が高い。

<悪い点>

- ・小中学生の子どもがいる世帯（特に共働き世帯）からの居住評価が低く、定住意向も決して高くない。
- ・夫婦のみ世帯は多く転入しているが、定住意向は低い。

○転出の特徴

- 職業上の理由（就職、転勤、転職）や結婚を機に、主に賃貸マンション・アパートへ、ひとり世帯、夫婦のみ世帯、親子世帯が転出していると想定される。
- 中学生以下の子どもがいる世帯のうち、両親共働き世帯が転出している。

◆転出理由について

- 大阪市への転出者は「通勤利便性」、大阪府（大阪市以外）への転出者は「まちの防犯性の高さ」、奈良県への転出者は、「緑の充実」、「子育てサービスや環境」、「都市のイメージの良さ」で選んでいる割合が高い。
- 二世帯（親と子）世帯は、住宅（住宅の広さ、日当たりなど）に関する理由を機に、より良い住宅環境を求めて転出する動きがあり、特に就学前（0～6歳）の子どもがいる世帯や、両親共働き世帯にその傾向がみられる。また、学業上の理由を転出理由に選んだのは、就学前（0～6歳）の子どもがいる世帯で高くなっている。
- 両親共働きの世帯については、持家（一戸建・分譲マンション）へ転出する傾向がみられる。

<良い点>

- 東大阪市への居住評価は、約 8 割が肯定的評価である。
- ひとり世帯の帰還意向が高い。
- 東大阪市で生まれ育った人の帰還意向が高く、ふるさととして愛着を持っている人が多いと推測される。

<悪い点>

- 就学前（0～6 歳以下）の子どもがいる世帯、中学生以下の子どもがいる共働き世帯の帰還意向が低い。

◆転入出アンケート結果概要

1. 転入転出共通

○移動の主な要因になった方について【転入：問3、転出：問3】

- ・転入は20～39歳、転出は20～34歳が約半分を占める。
- ・女性は、転入より転出の割合が高い。
- ・有業者の移動は、転入より転出の割合が高い。

○移動先について【転入：問1-1、転出：問1-2】

- ・転入前の住まい、転出後の住まいは、共に「大阪府内」が約6割を占める。

○移動後の世帯構成について【転入：問2、転出：問2】

- ・転入後、転出後の世帯構成は、夫婦のみ、ひとり世帯、二世帯同居（親と子）がそれぞれ約3割ずつとなっている。

○中学生以下（0～15歳以下）の子供がいる世帯の移動について【転入：問3、転出：問3】

- ・転入、転出ともに就学前（0～6歳以下）の子どもがいる世帯の移動が多い。
- ・親の就業状況について、両親共働き世帯は、転出で約6割を占めるのに対し、転入は約3割である。一方、両親の一方のみが就業する世帯は、転出で約3割を占めるのに対し、転入は約6割である。
- ⇒両親の一方のみが就業している世帯が多く転入し、両親共働き世帯が転出している

○移動の理由について【転入：問4、転出：問4】

- ・転入、転出ともに、1位「職業上の理由」、2位「結婚・離婚などの理由」で、全体の約6割を占める。
- ・転入と転出で比較すると、「職業上の理由」は転入でその割合が若干高く（4.4%）、「結婚・離婚などの理由」は、転出でその割合が若干高く（4.7%）になっている。
- ・移動の理由の内訳を転入、転出で比べると、転入の方が高い割合を示しているのは（※）「就職」、「通勤の利便性を重視」、「子の近くに居住」、転出の方が高い割合を示しているのは「結婚」である。
- （※転入、転出の移動理由を比較し、2%以上かけ離れているものを抽出）
 - ⇒就職、通勤の利便性を重視して、一定割合の人が転入しているのに対し、結婚を機に転出している人が多い。
- ・住宅（住宅の広さ、日当たりなど）に関する理由で移動した人は、転入・転出ともに「住宅を購入したかった」が1位になっており、転出の方がその割合は高くなっている。
- ・移動後の勤務地までの所要時間は、転入・転出ともに「1時間未満」が約7割を占める。
- ・勤務地の変更等の有無は、転入・転出ともに約半数が「（変更を）伴っていない」が転出では「（変更を）伴った」が転入より多く（+8.6%）になっている。

2. 転入

○居住地選択について【転入：問 6-1～問 6-4】

- ・転入者の約半数が他地域での物件も探しており、隣接自治体の中では大阪市城東区が最も多い（22.9%）。
- ・転入世帯における東大阪市への居住経験のある同居家族の有無については、約 4 割が居住経験があり、年数としては 20 年以上が約 6 割を占める。
⇒居住経験の長い人が戻ってきている。

○東大阪市に居住地を決めた理由について【転入：問 6-5】

- ・1 位は「通勤が便利（36.0%）」、ほぼ同数の 2 位として「以前に東大阪市に住んでいたことがある（15.8%）」、「特になし（15.8%）」、「日常の買い物が便利である（15.3%）」となっている。

○転入前後の住宅の所有関係などについて【転入：問 7、問 8】

- ・転入後の住宅の所有関係は 1 位「民間の借家（アパート・賃貸マンションなど）（46.8%）」で約半数を占め、2 位「持家（一戸建）（15.3%）」、3 位「持家（分譲マンション）（10.4%）」となっている。
- ・転入前より転入後の方が高い割合を示しているのは（※）、「民間の借家（アパート・賃貸マンションなど）（+12.1%）」、一方転入後の方が低い割合を示しているのは、「持家（一戸建）（-11.7%）」、「民間の借家（一戸建）（-4.1%）」となっている。
（※転入前後の住宅の所有関係を比較し、2%以上かけ離れているものを抽出）
- ・転入後の住宅の床面積は 1 位「60 m²～80 m²未満（19.4%）」、2 位「40 m²～60 m²未満（18.5%）」、3 位「20 m²～40 m²未満（16.7%）」となっている。
⇒転入先として、集合住宅（賃貸マンション・アパート、分譲マンション等）が想定される。
⇒20～30 歳代の転入が多いことを考えると、実家等の持家から独立して民間借家へ住む、単身世帯が民間借家へ住むという層が想像される。

○東大阪市での居住に対する評価について【転入：問 9】

- ・転入者の約 7 割が東大阪市の居住に対し肯定的に評価している。
【年齢別では 20 歳代からの評価は高いが、30 歳代からの評価は低い。】
【小・中学生（7～15 歳以下）の子どもがいる世帯からの評価は低い】
【中学生以下の子どもがいる共働き世帯からの評価は低く、一方のみ就業している世帯からの評価は高い。】
⇒主に 20 歳代を中心とした若者の単身世帯からの評価は高いことがうかがえる。逆に、小中学生の子どもがいる世帯、子どもがいる共働き世帯からの評価が低い。

○東大阪市への定住意向について【転入：問10】

- ・転入者の定住意向について、1位「できれば住み続けたい（37.8%）」、2位「わからない（33.8%）」、3位「できれば他の市区町村に移りたい（14.4%）」である。

【世帯別では、ひとり世帯は「できれば住み続けたい」の割合が高いが、夫婦のみ世帯は「できれば他の市区町村に移りたい」の割合が高い】

【就学前（0～6歳以下）の子どもがいる世帯は「できれば住み続けたい」「わからない」の割合が高いが、小・中学生（7～15歳以下）の子どもがいる世帯は「できれば移りたい」「わからない」の割合が高くなる】

⇒定住意向は決して高くない。

- ・他の地域へ移りたい理由のうち優先順位が1位のものとしては、1位「通勤・通学などで交通の便利なところに住み替えたい（27.5%）」、2位「買い物など日常生活が便利なところに住み替えたい（10.0%）」であり、今回の転入理由と同じである。

それ以外の理由として、優先順位1位、2位を合計して割合が高いものは「防犯対策が整っているところに住み替えたい」「今住んでいる住宅より質の高いところに住み替えたい」「都市のイメージが良いところに住み替えたい」「学校の教育環境が良いところに住み替えたい」となっている。

3. 転出

○転出先の居住地の決定理由【問6】

- ・1位は「通勤が便利（37.0%）」、2位は「日常の買い物が便利である（15.3%）」となっている。

【大阪市への転出者は「通勤利便性」、大阪府（大阪市以外）への転出者は「まちの防犯性の高さ」、奈良県への転出者は、「緑の充実」、「子育てサービスや環境」、「都市のイメージの良さ」で選んでいる割合が高い】

【二世帯同居（親と子ども）世帯は、他の世帯分類よりも、住宅（住宅の広さ、日当たりなど）に関する理由で転出する割合が高い】

【回答者全体を見た際、学業上の理由を転出理由として選んだのは、就学前（0～6歳以下）の子どもがいる世帯で多くなっている。就学前（0～6歳以下）の世帯は、住宅（住宅の広さ、日当たりなど）に関する理由を選ぶ割合も高くなっている。】

○転出前後の住宅の所有関係などについて【転出：問7、問8】

- ・転出後の住宅の所有関係は1位「民間の借家（アパート・賃貸マンションなど）（47.7%）」で約半数を占め、2位「持家（分譲マンション）（13.0%）」、3位「持家（一戸建）（12.5%）」となっている。
- ・転出前より転出後の方が高い割合を示しているのは（※）「給与住宅（社宅・官舎・家族寮・独身寮など）（+4.7%）」、一方転出後の方が低い割合を示しているのは、「持家（一戸建）（-7.9%）」、「持家（分譲マンション）（-4.2%）」、「親族の家（-2.8%）」となっている。

（※転出前後の住宅の所有関係を比較し、2%以上かけ離れているものを抽出）

・転出後の住宅の床面積は1位「60㎡～80㎡未満(22.2%)」、2位「40㎡～60㎡未満(20.8%)」、3位「20㎡～40㎡未満(14.8%)」となっている。

⇒転出先として、集合住宅（賃貸マンション・アパート等）が想定される

【中学生以下の子どもがいる共働き世帯が、持家（一戸建、分譲マンション）へ転出する傾向がある】

○東大阪市での居住に対する評価について【転出：問9】

・転出者の約8割が東大阪市の居住に対し肯定的に評価している。

【20歳代の約7割、30歳代の8割以上が肯定的に評価している】

⇒30歳代の若者から肯定的評価が高い。

○東大阪市への帰還意向について【転出：問10】

・転出者の帰還意向について、1位「どちらかといえば戻りたい(42.1%)」、2位「どちらかといえば戻りたくない(26.4%)」、3位「戻りたくない(17.6%)」である。

【世帯別では、ひとり世帯は「どちらかといえば戻りたい」の割合が高いが、夫婦のみ世帯や二世帯同居（親と子ども）では戻ることに関する肯定的な回答と否定的な回答が半々】

【就学前（0～6歳以下）の子どもがいる世帯は、戻ることに関する肯定的な回答と否定的な回答がほぼ半々であるが、否定的な方が若干多い。小・中学生（7～15歳以下）の子どもがいる世帯は戻ることに関する肯定的な回答と否定的な回答が半々】

【中学生以下の子どもがいる世帯のうち、共働き世帯は戻ることに関する否定的な回答が多く、一方のみ就業している世帯は戻ることに関する肯定的な回答が多い】

⇒ひとり世帯は帰還意向が高いものの、就学前（0～6歳以下）の子どもがいる世帯や、中学生以下の子どもがいる共働き世帯の帰還意向は低い。

・帰還意向の理由のうち優先順位が1位のものとしては、1位「生まれ育ったところだから(29.2%)」、2位「買い物など日常生活が便利だから(19.5%)」、3位「親など親族の居住地が近いから(17.7%)」である。

⇒東大阪をふるさととして、愛着を持っている人が多いと推測される。

市民アンケートからみえる特徴

- 東大阪の住み心地は「住みやすい」、居住意向は「ずっと住みたい」が約半数を占める。
- 東大阪市の魅力・イメージは、「ラグビーのまち」「モノづくりのまち」「大阪市に隣接し、駅が多くあり、交通の便がよい」「買い物に便利」「大学が多い」が上位5位までを占める中、6位は「生駒山系の緑に恵まれ、自然環境が豊かである」となっている。
- 将来像は、「災害に強く、安全で安心できるまち」「高齢者や障害者などにやさしいまち」が約4割を占め、「道路・交通環境が整ったまち」「子育て環境が充実したまち」が約3割を占める。なお、10-30歳代の若者・子育て世代では、「子育て環境が充実したまち」を望む傾向がある。
- “子育て世代が暮らしやすいまちづくり”に向けては、「保育サービスの充実（保育所数の増大や病児・病後児保育など）」が約4割を占める。
- 充実してほしい小・中学校での教育内容は、「豊かな心を育てる取組みの充実（生命や人権の尊重、男女平等、思いやりや助け合いなど）」が約4割を占める。
- “若者が集い活気にあふれたまちづくり”に向けて必要な施策は、「雇用の受け皿づくり（企業誘致、企業支援など）」「賑わい空間の充実（買い物・レジャー施設など）」「余暇活動の場の充実（スポーツ・芸術を楽しむ場など）」が約3割を占める。
- “高齢者が元気で活躍できるまちづくり”に向けて必要な施策は、「安心して医療を受けられる環境の充実」「高齢者が地域での孤立することを防ぐ取組み」が約4割、「年齢にとらわれず、いつまでも働くことのできる環境の充実」が約3割を占める。
- 身近に思う「地域」の範囲は、「自治会の範囲（町、丁目など）」が約3割を占め、「はっきり意識していない」が約2割となっている。
- 住み良い地域のために地域住民ができることは、「ひとり暮らし高齢者の見守り・声かけ」が約4割を占める。なお、今後参加したい活動については、「特になし」が約4割を占め、その理由として、「時間的にゆとりがないから」が多くなっている。

【まとめ】

住み心地、居住意向については“住みやすく、ずっと住んでいたい”と思っている人が約半数を占め、その魅力・イメージについて、「ラグビー」「モノづくり」「交通が便利」「買い物に便利」「大学が多い」で上位5位を占める。

重点的に取り組むべき施策について、子育て世代では「保育サービスの充実」、若者は「雇用の受け皿づくり」「賑わい空間の充実」「余暇活動の場の充実」、高齢者は「安心して医療意を受けられる環境」「孤立を防ぐ取組み」「年齢にとらわれず、いつまでも働くことのできる環境の充実」を望んでいる。

ワークショップ（市民、若手職員）意見の結果概要

		市民	職員	
			市内在住	市外在住
暮らしやすいですか？	良いところ	<ul style="list-style-type: none"> スーパーが多い 交通の便がいい 東西の交通はいい 大阪市や奈良に行きやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 交通の便がいい 難波、奈良や京都に行きやすい 商業施設がある 特に不便はない 妊婦には非常にやさしいまち。 リージョンセンターが各地域にある 地域で、祭りなどもよくやっている 	<ul style="list-style-type: none"> 交通の便がよい 主要な公共施設がある 生活には事欠かない 商店街が活性化している コミュニティが濃い 生活しやすい
	悪いところ	<ul style="list-style-type: none"> 空気が悪い、汚いイメージ 緑が少ない 遊び場、遊ぶところが少ない 道が狭い、暗い 北と南の交通網が弱い 山の方は交通の便が悪い 自転車の道が悪い、危険 バスの運賃が高い、便数が少ない ラグビーが終わった後の10年後がどうなっているのか心配 ラグビーを推しすぎではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 道がボコボコしており、狭く、歩道がない 待機児童が多い 治安がよくないなど悪いイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代にとってはイメージ 子育て世帯には生駒市のほうが魅力 地域によって便利なところと不便なところがある 空気が汚い 地域に入りにくい 悪いイメージがある 道路が狭い
10年後の東大阪市	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の活用 バスの便数を増やす 中小企業のアピール、活性化 子どもが遊べる公園 地域コミュニティの活性化 ブランドを作る 思い出になるような魅力を増やす ITの世界 楽しいまち、きれいなまち 学生のまち 住みやすいまち 	<ul style="list-style-type: none"> 道を広くし、公園を増やし、子育て環境をよくする 子どもが外で遊べるようなまち 治安をよくする 市民参加型などの小さいイベントをいっぱいする 住みたいまちのランキングに載るぐらいのイメージに ラグビー場の活用 枚岡のまつりなど残したい 	<ul style="list-style-type: none"> 緑を増やす イメージを払拭 花園中央公園の活性化 放置されている市有地の活用 子どもが遊ぶ公園、大人が余暇を楽しめるスポット 東大阪どこにあるのか認知されていない 大企業などを誘致 付加価値のついたものがあれば 	
市がすべきこと	<ul style="list-style-type: none"> 自分のまちを知る まちのPR、ガイドブックでアピール 子どもが遊べるところ 住民参加型のイベント 空き家の改善、有効活用 西と東で栄え度が違う バス路線の増加 歴史好きの人たち向けのツアー 再開発の失敗点、成功点をまとめ、周知する 東花園ラグビー場の活用 交流のできる場所 東大阪で就職する人を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> キャッチフレーズを1つに イメージを改善 安心して子育てできるように、教育に力を入れる 大企業を誘致し、出ていかないよう食い止める対策 大学と連携 人に住んでもらえるようなまちづくりが大事 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代にやさしいまち 高齢者の活用 地域のお祭りなどの情報発信 人口減少を受け入れる 空き家の活用 外国人労働力受け入れ 市有地の有効活用 PR 	
まとめ (よりよい10年後にするため、市役所がすべきことは、○○○)	<p><PR></p> <ul style="list-style-type: none"> プロモーションが下手 目玉づくりが必要 <p><ハード整備></p> <ul style="list-style-type: none"> 道路整備、空き家の活用、歩道の整備など <p><計画></p> <ul style="list-style-type: none"> まちと住民の融合が重要。市民の意見も含めながらやっていくことが重要 <p><歳入について></p> <ul style="list-style-type: none"> 歳入を上げる。歳入確保のためには税金を上げなければいけない。税外収入もある。ふるさと納税等 <p><市民関係></p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の意識を変える 市民の集まる場所を作る <p><地域資源></p> <ul style="list-style-type: none"> ラグビー場の有効活用 今眠っているものをしっかり生かしている、見つけていこうというようなブランディングをしっかりとプロモーションしよう 		<p><共通認識></p> <ul style="list-style-type: none"> イメージが悪い、イメージを変えていく、そこが一番大きい <p><市内・市外の傾向></p> <ul style="list-style-type: none"> 市外の方：中身を変えていったほうが良いという内部改革が多い 市内の方：教育に対する意識改革が多い <p><総まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> よりよい東大阪市のためにいい事業提案をしていただきたい 東大阪市もこのままではかなり厳しい。皆さんが意識を変えて、イメージも出して、東大阪市を変えていっていただければ 	

<ワークショップ（市民、若手職員）意見の結果概要（分類区分案）>

（※注）下線部の意見は、若手職員ワークショップにおける意見（異なる特徴のみ）

1. 暮らしやすさ

- 1) どちらかといえば、暮らしやすい

2. 良いところ

- 1) 交通の便がいい
 - 大阪市や奈良に行きやすい（東西軸）
 - 電車の便がよい（駅が多い）
- 2) 暮らしやすさ（買い物等の便利さ）
 - スーパーが多い
 - 買物も欲しいものは近くで揃えられる
 - 飲食店が多い
- 3) 暮らしやすさ（病院などの便利さ）
 - 病院がそろっている
 - 妊婦にやさしいまち
 - 産婦人科や小児科が充実
 - エリア毎に主要な公共施設がある
 - 暮らすには不自由しない
- 4) 大学が多く、活気がある
- 5) 人情味がある、温かい
- 6) 生駒山がきれい
- 7) その他
 - 花園中央公園（緑が多くランニングができる）
 - 各地域の交流（リージョンセンターの便利さ）や祭り
 - 地形が平坦で自転車も利用しやすい
 - 衣食住に困らない

3. 悪いところ

- 1) 東大阪の知名度が低い
 - 特色ある文化や産物がない
 - 魅力を感じるところが少ない
- 2) 遊ぶところが少ない
- 3) 緑が少ない
- 4) 子どもの遊び場が少ない
 - 公園が少ない
- 5) イメージが悪い
 - 治安が悪いというイメージがある（特に西部）
 - 空気が悪い
- 6) 汚いところがある
 - ゴミのポイ捨て
 - 手入れされていない公園がある
- 7) 道の安全性が乏しい
 - 道が狭い
 - 歩道が狭い
 - 自転車が多いが、狭い道に混在し、自転車・歩行者ともに危険
 - 自転車の道が悪い
 - 道がデコボコしている
 - 暗い（街灯が少ない）

- 8) バスが利用しにくい
 - 本数が少ない
 - 運賃が高い
 - 東部山麓部の便が悪い
- 9) 南北方向の交通軸が弱い
- 10) 空家が目立ってきている
- 11) 東部山麓部の不便さ
 - バスの便
 - 交通の面で不便
 - スーパーが少ない
- 12) マナーが悪い
 - 夜の公園の中高生がうるさい
- 13) 待機児童が多い
- 14) その他
 - ラグビーを押しすぎ、PR しすぎ
 - 子育て世帯には、生駒市の方が魅力的
 - 河内気質が強すぎて、地域に入りにくい

4. 10年後の東大阪（+ “市がすべきこと” 含めて）

- 1) 道路の整備
 - ① 道幅を広く
 - ② 自転車道の整備
 - ③ 路面のデコボコの改善
- 2) 公共交通の充実
 - ① 南北交通軸の強化
 - 南北モノレール整備
 - バスの便数や路線の増加
 - ② 高齢化に対応した移動しやすいバスの充実
- 3) 活力ある産業のあるまち
 - ① 企業の誘致（税収アップ）
 - 大きな企業の誘致
 - 地場産業の誘致
 - ② 中小企業活性化
 - 活性化イベントの取組み
 - 良さのアピール
 - ③ 就職先が多いまち
 - ④ 人を育てていくまち
- 4) 子どもがたくさんいるまち
 - ① 子どもの遊び場の設置
 - 公園、遊具のある遊び場
 - ボール遊びのない安心できる遊び場
 - 緑の充実
 - 学校の開放
 - 子どもたちで賑わう公園
 - ② 待機児童の減少による、子育て環境の充実
 - ③ 子育て世代が余暇を楽しめるスポットの充実
 - ④ 公園、大きな公園の充実
 - ⑤ 雨の日でも遊べる場所づくり
 - ⑥ 教育に力を入れる
 - ⑦ （公園の数は少ないというイメージはないようなので、数は今のままでよい）
- 5) 若者対策
 - ① 若者が遊ぶ場の増大
 - ② 大学卒業者の市内居住者への家賃補助（市内居住や市内就職促進へ）

- 6) イベントでつながる活力あるまち
 - ① 毎日イベントがあるような楽しいまち
 - ② 新しく来た人と地域の人との横のつながりがあるまち
- 7) 東大阪市としてのブランド形成
 - ① 魅力を増やす
 - ② 思い出になるようなものがあるまちに
 - ③ 歴史的文化的なものを楽しめるまち
 - 歴史好き向けのツアー
 - ④ ラグビー場の有効活用
 - イベントの活性化
 - 商業施設整備
 - 子ども向けものづくり体験、若者向けイベント等の開催
 - ⑤ 市外の人々が魅力を感じるキャッチフレーズを（ラグビーや中小企業では弱い）
 - ⑥ 魅力的なものが特化した商業地の整備
 - ⑦ モノレール整備を活かした、駅周辺の重点まちづくり（商業施設、マンションなど）
- 8) 土地・建物の有効活用
 - ① 空家の活用を
 - シェアハウス化
 - 長屋の学生利用など
 - 景観対策
 - ② 放置されている市有地の空き施設の活用（子育てや学習の支援など）
 - ③ 再開発等の有効な情報発信（経験・知見を活かした取組み活性化）
 - ④ 長期スパンで土地の整理を
- 9) 防災対策を
 - ① 耐震対策
- 10) 高齢者対策を
 - ① 元気な高齢者にもっと活躍してもらえるまちづくり
 - ② 高齢者による子育てや教育の支援
- 11) コミュニティの活性化
 - ① 多くの人が集まれる地域コミュニティの場の活性化（市、企業、大学等連携で）
 - ② 近所づきあいやコミュニケーションの増大
 - ③ 市民参加型・地域参加型のイベントの活性化
 - ④ 子どもから高齢者まで広く楽しめるイベント
 - ⑤ 祭りを通して横のつながりがあるまち
 - ⑥ スマホ講習会の開催による利用促進
 - ⑦ カフェなど交流可能な場の増大
- 12) イメージの改善
 - ① きれいな街に（宝塚のように明るく雰囲気のある街に）
 - ② 緑の充実
 - ③ 治安を良くする
 - 治安に有効な照明の導入
 - （生活保護の基準の強化）
- 13) 地域間格差の改善
 - ① 古く余り発展していない西の発展やPRを
- 14) 外国人労働力対策
 - ① 受け入れ環境整備

5. 市がすべきこと（“10年後の東大阪”以外の事項に関して）

1) まちのPRの強化

- ① 市のPR強化
- ② 子どもが遊べる場所、学生が遊べる場所の発信
- ③ 既存のガイドブック等の発信強化
- ④ 市のHPをみやすく
- ⑤ SNS等を活用したPRの活性化
- ⑥ 住まいや職探しに有効な情報の総合発信
- ⑦ 人づくりのまちのPR
- ⑧ 観光客だけでなく、市民向けのPR、地域情報のPRの強化
- ⑨ 地域資源（眠ってるもの、活かせていないもの）の発掘とPRの強化
- ⑩ PRを通じて市民の意識も変えていく
- ⑪ 大学と連携したPR強化を
- ⑫ 子育て支援事業のPR強化